

平成29年6月6日

「大学入学共通テスト（仮称）」実施方針（案）に対する意見

一般社団法人日本新聞協会

N I E委員会

委員長 南 砂

大学入試センター試験に代わる「大学入学共通テスト（仮称）」は、知識・技能だけでなく、それらを活用して課題を解決するのに必要な思考力・判断力・表現力等を評価している。具体的には、国語科で記述式問題を導入し、複数の情報をもとに考えをまとめる力や、相手が正確に理解できるよう根拠に基づいて論述する力などを評価するとしており、社会を生き抜く上で必要な言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成するとして新学習指導要領の考え方に沿った内容である。

このような新たな試験で評価しようとしている資質・能力を育成するには、新聞を含む読書活動の充実や新聞等の資料の活用が欠かせない。そのために、小・中・高校の各段階で新聞に親しませ、新聞を学習材として活用した教育に努めるよう求める。新聞は学力向上に資するだけでなく、社会と学校をつなぐ「窓」として児童生徒の社会参画意識を向上させる。選挙権が18歳以上に引き下げられた現在、子供たちが学校で日常的に複数の新聞を閲読できる環境を整備することも重要である。

以 上